

令和 8 年 4 月 15 日

農業生産流通課 野菜グループ

担当 香西 中村 (内線 3777)

電話 (087)832-3422

## ニンニク県育成品種「かがわにんにん」が出願公表されました

香川県農業試験場が育成し、農林水産省に品種登録出願をしていたニンニクの新品種「かがわにんにん」が、4月14日付けで出願公表となりました。

### 1 経緯

品種名称 「かがわにんにん」  
出願年月日 令和7年12月12日  
出願公表年月日 令和8年4月14日

### 2 品種名の由来

ニンニクに含まれる機能性成分のアリシンには、強力な殺菌・抗菌作用があり、風邪やインフルエンザのウイルスにも効力を発揮するといわれています。その特徴から、強い忍者をイメージし「かがわにんにん」として、子どもを中心に万人に親しまれるように名付けました。

### 3 特徴

県内で一般的に栽培されている種球「太倉種」に比べ、

- 1) 不結球葉状化症状（「スポンジ」症状）の発生割合が極めて低い。
- 2) 抽苔が20日以上早く、早期に収穫できる。（「早生」の太倉種よりさらに早い「極早生」）
- 3) りん片数は、10片程度と、「太倉種」より2～3片多い。



「かがわにんにん」の断面および外観



(参考) ニンニクの不結球葉状化症状

### 4 県内のニンニク生産状況

西日本1位(全国3位)の生産量を誇る県産ニンニクの産地は県内全域に分布し、令和7年産は、約63haが栽培されています。

ニンニクは露地品目の中でも単価が高く安定していることから、露地野菜に取り組む生産者にとって、有望な品目であるものの、県内で一般的に栽培されている「太倉種」の種球品質が安定しないこと、気候変動の影響により不結球葉状化(スポンジ症状)や白絹病の発生が増加している等の理由により、収量や品質が低下し、近年、栽培面積が減少しています。

そこで、「太倉種」の一部を本品種に切り替えることによって、これらの対策の一助となることが期待されています。

県では、最短で令和9年度に県内の生産者に原種の供給ができるよう、種苗供給体制の構築を進めています。